

女川町復興まちづくり住民説明会（針浜集会所） 議事録

日 時：平成24年1月28日（土） 10：00～12：00

場 所：針浜集会所

対象者：

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員
水産課長、建設課長、税務課長、町民課久坂氏

コンサル

1.挨拶 須田町長

2.資料説明：復興対策室 柳沼参事

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
 - ・災害公営住宅整備事業
 - ・防災集団移転促進事業
 - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

- Q. 安住大沢の説明は全然入ってない。測量士が来ているが、そのところ説明してもらいたい。
- A. 測量というのはおそらく女川町全体でどれくらい沈下しているか県が行ったものだと思う。その結果に基づいて対策を施す方向になっている。
- Q. YKCの向かいだが、どうなっているのか。
- A. 11月までは、建築物禁止区域に入っていたが、設定が変更になり建築制限のある区域になった。今から道路などが決まってきた、移転の場合もあるので個別に相談してほしい。
- Q. 国道を、大沢、安住のほうまで上げるのか
- A. 今のところは上げることはなっていない。
国道のかさ上げとその背後地の盛土については、女川港、湾のほうの津波の対策の、防潮堤の機能を備えた道路と盛土という事なので、それ以外の、浦宿からこっちの道路沿いについて国道全部盛土するという事は想定していない。ただし、防潮堤と排水含めた対策は県が、その後の冠水含めた対策は町と県と一緒にやっていくことにしている。
- Q. 町の方は進んでいるが、浜の方は進んでいないようなのだがどうなのか。
- A. 浜は地区ごとに話し合いを進めている。基本的に浜も住居は高台へとしている。漁業地区としての土地利用については、その後に話し合うこととしている。
- Q. 木造建築は地震では壊れていない。
- A. 昔からの工法が効果あったのですね。
- Q. 今回の地盤沈下で、国道の橋けたが満潮になると、いっぱいになる。それを県のほうへお願いすることは出来ないのか。
- A. さまざまな対策をとらなくてはいけないだろうと思う。県の事業と町の事業と両方あわせてやることになると思う。
- Q. 国道の橋をあげることは出来ないのか
- A. 国道のかさ上げ、橋の部分はどうかと言うことは、お願いしている。まだ、結論は出てはいない。
- Q. 具体的になってきたら、区ごとの説明会をして欲しい。

- A. 指摘の通りです。
- Q. 町内外への広報を確実なものにして欲しい。
- A. 生活再建を支援するというのが最低限行政として果たすべき役割だと思っているので、情報提供はちゃんとやっていきたい。
- 石巻河北を使いながら、月1回ぐらい広報と広報の間に情報伝達できないかなということでも検討している。
- 2月10日11日、大崎・石巻・仙台で説明会を予定している。
- Q. 安住大沢では、大潮で冠水するがどうなるか。
- A. 冠水被害等についても対応していかなければならない。ただ優先順位はどうしても、スピードと事業の発注等あるのでご勘弁いただきたい。一つ一つのことは同じ町内どこに住んでいても、もちろん町民です。その意識は強く持っているなのでその点は理解いただきたい。
- Q. 刃物研ぎで回っているが、その行為はいいのか。警察の許可はもらっている。
- A. 法的に問題が無いのであれば、大丈夫だと思う。細かい部分は、担当に相談してほしい。
- Q. 海岸の護岸と川の高さについて、冠水の被害対応してほしい。
- A. わかりました。
- Q. 高台以外での土地利用はどう考えているのか。
- A. 市街化調整区域についての実態にあった改善、住宅地の形成、工場立地とか使い方がいろいろあると思う。特区の話も出ている。国でちゃんとやれるかというのはあるが、活用していく。土地の利活用については、一件、一件対応していきたい。
- Q. 今後、住宅地を山沿いで繋げるような道路の計画はあるのか。
- A. そのように、道路整備の計画がある。
- Q. 今後の住民説明会では、さらにイメージが伝わり、わかりやすい図を作れないか。
- A. 全部3Dで見ることも可能だという。予算の関係もあると思う。
- Q. 住民が一番興味あるのは、自分のところがどうなるのかということ。
- A. 今後、詳細計画を作っていく。そういう場面では、行政区単位などで説明を行っていく予定。

以上